保育プラン

芦屋市立宮川幼稚園の防災教育①

テーマ 幼稚園の防災力向上
～防災意識の芽生えと大人の意識向上～

対　象 幼稚園児（2年保育4、5歳児）
保護者、教職員

芦屋市立精道こども園
主幹保育教諭
（芦屋市立宮川幼稚園元園長）
山中 朱美

保育のねらい

- 幼児の防災意識の芽生えを培う。
- 保護者の防災意識を高め、家庭での防災行動につなげる。
- 教職員の防災力を高め、訓練を通して実際の現場での冷静且つ迅速な対応力の向上をはかる。

監修
諏訪清二
（すわ・せいじ）
防災教育実践交流会座長
防災教育学会会長
防災学習アドバイザー・コラボラレーター。国内外で防災教育のプロジェクトに関わるほか、学校での防災学習の支援活動を中心に、災害、ボランティア、語り継ぎなどのテーマで講演も行う。

取材・編集　一般社団法人社会応援ネットワーク
防災教育実践交流会

学習の流れ…→

導入 1

まずは考えてみよう

水平避難ルートの検討と確認

・さまざまな被害状況を想定し、複数の避難ルートを検討する。

川沿いの道
商店街のアーケード
踏切
歩道橋　など

展開 1

実際に歩いてみよう

「もしも…」に備えるための確認事項

・これまで気付かなかったことや知らなかったこと、歩いてみて分かったことを認識する。

海抜表示看板
防災ボックス
津波避難ビル
雨天時の持ち物
倒壊の危険性の有無　など

⬇

細かい部分まで検討し、考えられる基本避難ルートを決定する。

導入 2

防災参観日の設定

保護者と一緒に避難訓練

・シェイクアウト訓練

保護者の姿勢を見ることで、園児は客観的に姿勢を確認する。

・避難袋や備蓄の重要性
自分で自分の命を守るための緊急持ち出しや備蓄について考えることで、園児の防災意識が芽生え、保護者の防災意識を高めることにつながる。

展開 2

防災参加日に親子で避難袋（緊急持ち出し袋）を作成

・袋に入れて持ち出すものは何？

・家庭で備蓄しておくものは何？

名前シールを貼った巾着袋にペットボトルの飲料と乾パンを詰める。

親子で試食し、防災について親子で話し合うきっかけとする。

《注意点》アレルギーや偏食が強い子どもへの配慮も必要。

まとめ

実際につくった避難袋を持ち、事前に決定した避難ルートを歩いてみよう

［津波警報発令想定］
隣接する小学校3階への垂直避難

実施してみてわかったこと

・ヘルメットを着用、水筒やリュックなど準備完了まで 15 分。

・先に避難袋を渡しリュックに入れてから背負う方が早い。

［大津波警報発令想定］
標高 10m 以上の近隣幼稚園への水平避難

実施してみてわかったこと

・避難準備完了まで 20 分、全員の避難完了まで地震発生から 40 分で、警報発令から津波到達までの時間内（約 110 分）に避難は可能となった。

【課題】

《避難方法》 担任が把握しやすいクラス毎にまとまって避難したところ、保護者から「避難が心配」との指摘があった。

・4 歳児は、先に行く 5 歳児クラスの急ぎ足についていけず転倒しがち。

・4 歳児は手すりを使わないと歩道橋の階段をうまく上り下りできず危険。

・4 歳児だけで歩くのは困難。

・1 人の担任では非常時にクラス 25 人を掌握するのは困難。

《次回に反映すること》

・クラス毎ではなく5歳児と 4 歳児のペアで手を繋いで歩くこと

・避難途中での人数確認は必須。

・雨天、真夏・真冬など悪天候時の避難ルートと持ち物を再検討すること。

©一般社団法人社会応援ネットワーク
※「防災教育実践交流会」は、競輪の補助を受け運営しています。

保育プラン

芦屋市立宮川幼稚園の防災教育②

テーマ 幼稚園の防災力向上
～防災意識の芽生えと大人の意識向上～

対　象 幼稚園児（2年保育4、5歳児）
保護者、教職員

芦屋市立精道こども園
主幹保育教諭
（芦屋市立宮川幼稚園元園長）
山中 朱美

保育のねらい

- 幼児の防災意識の芽生えを培う。
- 保護者の防災意識を高め、家庭での防災行動につなげる。
- 教職員の防災力を高め、訓練を通して実際の現場での冷静且つ迅速な対応力の向上をはかる。

監修
諏訪清二
（すわ・せいじ）
防災教育実践交流会座長
防災教育学会会長
防災学習アドバイザー・コラボラレーター。国内外で防災教育のプロジェクトに関わるほか、学校での防災学習の支援活動を中心に、災害、ボランティア、語り継ぎなどのテーマで講演も行う。

取材・編集　一般社団法人社会応援ネットワーク
防災教育実践交流会

学習の流れ…→

導入 1

防災遠足の実施に向けて

避難訓練で判明したこと

- 4 歳児は、先に行く 5 歳児クラスの急ぎ足についていけず転倒しがち。
- 4 歳児は手すりを使わないと歩道橋の階段をうまく上り下りできず危険。
- 4 歳児だけで歩くのは無理がある。
- 1 人の担任では非常時にクラス 25 人を掌握するのは困難。

教職員が事前にルートを歩いて確認。

- 歩道橋を渡るには、右側と左側どちらを歩くのが安全か？
- 階段を上る前と下りた後にどんな危険があるか？

実際に起り得る危険を想定しながら、教職員の立ち位置や誘導方法を再検討する。

展開 1

防災遠足で実際に歩いてみよう

事前に確認した誘導方法で園児を歩かせる。

- 4 歳児 5 歳児でペアを組む。
- 歩道橋は安全な右側を、4 歳児が手すりを持って歩く。
- 想定した危険に対応した立ち位置と誘導方法で避難ルートを歩く。

導入 2

大津波警報発令時の水平避難訓練を再設定

事前に保護者と設定・役割を確認。

- 保護者は「参観」ではなく「参加」に。
- 迎えにきた保護者に園児を引き渡さずに避難協力を要請。

新しい設定を追加。

- 各所でガラス割れ、電線切れ、小学校のフェンス倒壊などが発生。

駐輪場を避け歩道のある道路を使うなどルートを再確認。

展開 2

前回の反省を踏まえた実践

- 教職員や保護者は園児の外側（危険側）を等間隔に歩く。（安全確認や危険回避誘導）
- 4・5歳児ペアで手をつないで歩く。
- 新しい設定への対処（割れたガラス、切れた電線、フェンス倒壊箇所の迂回など）
- 途中の人数確認を徹底。
- 怖がらせない、急がせない（緊迫→恐怖、急ぐ→転倒）

まとめ

課題を踏まえ、回を重ねるごとに充実した内容に

- 「恐怖心」や「訓練が嫌だ」という気持ちにならないよう、落ち着いて基礎的な訓練を重ね、確実に「わかった」「できた」と実感し自信につなげる。
- 怖がらせたり急がせたりしないよう教職員は落ち着いて対応する。
- シェイクアウト姿勢の「だんごむし」は周囲が見えないので「しゃがむ、頭を守って、動かない」に変更（専門家の指導）。
- さまざまな被害の状況設定には教職員の想像力が重要。
- 雨天時の対応では、訓練時に傘をさして歩く体験を組み入れる。

「ゴー！ゴー！ぼうさい」
（毎年開催の PTA 主催イベント）

イベントのテーマを防災とし、保護者と一緒に防災体験ゲームや防災紙芝居など、楽しく学べる防災体験を実施する。

※令和 5 年度優良 PTA 文部科学大臣表彰団体に選ばれました。

救急の日
AED って何？

こどもには何ができる？
使えなくてもどこにあるか知っていれば場所を教えることができる。幼稚園以外でも場所を確認しておくように指導する。

©一般社団法人社会応援ネットワーク
※「防災教育実践交流会」は、競輪の補助を受け運営しています。

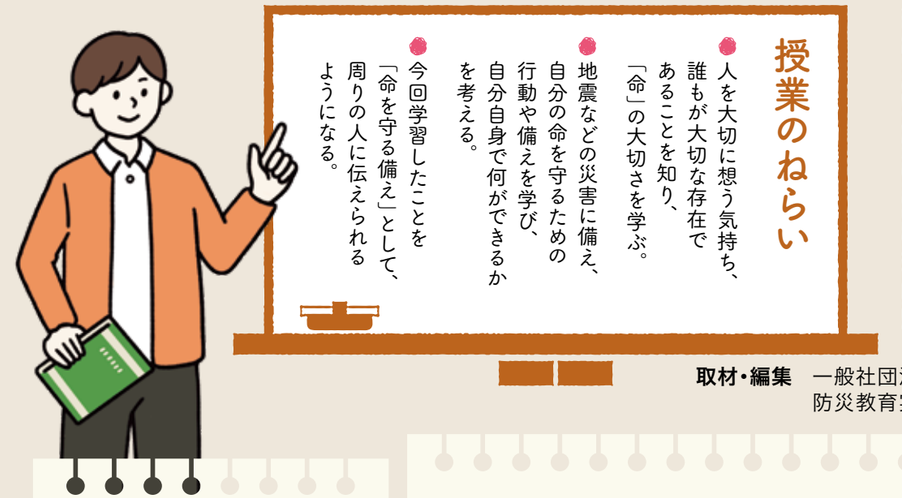
授業プラン

どうする？災害大国日本
（3年生総合的な学習）

テーマ 「命を守る備え」を提案しよう
対　象 小学3年生
教　材 過去1年間に起こった災害一覧表などの資料
災害の記録映像や記録写真、書籍など
人と防災未来センターの見学

神戸常盤大学
教育学部
こども教育学科

講師
田中 達也



監修
諏訪清二
（すわ・せいじ）
防災教育実践交流会座長
防災教育学会会長

防災学習アドバイザー・コラボラレーター。国内外で防災教育のプロジェクトに関わるほか、学校での防災学習の支援活動を中心に、災害、ボランティア、語り継ぎなどのテーマで講演も行う。

取材・編集　一般社団法人社会応援ネットワーク
防災教育実践交流会

学習の流れ…>

導入1
災害大国日本に住むわたしたち

今年度に発生した災害を振り返ってみよう（台風・地震・水害など）。

・大きな災害は、いつ、どこで起こっているか？

・自分たちの暮らしに大きく関わる可能性がある災害は何か？

展開1
「命を守る備え」の必要性

時期や場所を問わず発生する災害に対し、どのように命を守ればいいか話し合う。

これまでの生活経験から自分たちに何ができるかを考える。

・JR などの計画運休や緊急地震速報などのアラームで、事前にどんなことができたか？

・台風情報や大雨情報などからどんな対策ができたか？

導入2
「命を守る備え」の学習計画

災害にはたくさんの種類があり、それぞれ想定される被害も違う。

・実際にどんな被害があったのか、記録映像や資料を見て調べる。

・実際の被災者の話を聞き、被害状況や避難の様子を詳しく知る。

・どんな備えが必要か、具体的に何を準備すればいいのか考える。

地震や台風、水害などから具体的に一つの災害を取り上げて考えてみよう。

展開2
実際の災害から学ぶ

阪神淡路大震災から命の大切さと地震の防災対策を学ぶ。

・阪神淡路大震災とはどんな災害だったのか？

・実際に自分たちが住んでいる地域で発生し、多くの人が亡くなった。

・火災で亡くなった人が多い。

災害は他人ごとではなく、自分にとっても身近で起り得るということを理解する。

まとめ
ハード面の対策

家の中では、家具が倒れたり移動したり、ガラスが割れたりモノが落ちたりするのをどう防ぐか？

自分でできること、できないことをまとめる。

家の中だけでなく学校での対策も考え、日常に潜む危険や避難経路など防災の重要性について考えられるように。

ソフト面の対策

災害時に自分たちに何ができるか。

どんなことなら助け合うことができるか。

これまでの災害で、被災者がどのように復興に向けて歩みを進めてきたか考え、「共助」の意識を持たせる。

自分たちの住む町の特性に合わせた「命を守る備え」を作成、実際に保護者に提案し、どのように実行されたかを確認する。

©一般社団法人社会応援ネットワーク
※「防災教育実践交流会」は、競輪の補助を受け運営しています。

授業プラン

急な川の増水を防げ！
（4年生理科）

テーマ 実際の事例と予測・仮説を科学的に関係づけ深く理解する。

対　象 小学4年生

教　材 雨天時のグラウンドや増水した川の映像と画像。
2008年に発生した神戸市灘区の都賀川水難事故の事例。
植木鉢、数種の粒の大きさの違う土や小石と水。

神戸常盤大学
教育学部
こども教育学科

講師
田中 達也

監修
諏訪清二
（すわ・せいじ）
防災教育実践交流会座長
防災教育学会会長

防災学習アドバイザー・コラボラレーター。国内外で防災教育のプロジェクトに関わるほか、学校での防災学習の支援活動を中心に、災害、ボランティア、語り継ぎなどのテーマで講演も行う。

取材・編集　一般社団法人社会応援ネットワーク
防災教育実践交流会

学習の流れ…→

導入 1

整理と共有

水の流れ方やしみ込み方について知っていることをまとめて仮説を立てる。

・いつも水溜りができる場所とできない場所がある。

・水は高い所から低い所へ流れるので、水溜りのできる場所は地面が低く、できない場所は高くなっているのでは？

・地面の状況によって水のしみ込み方は変わるのでは？

展開 1

実際の例との比較

実際のグラウンドの様子や水溜まりを写真で確認し、仮説通りの状況か確認する。

・実際に地面の低くなっている所に水は溜まっているか？

・溜まっている場所の地面はどんな状態か？

都賀川の事例提示

災害はなぜ起こったか？

・雨水はなぜ川にたくさん流れ込んだのか？

・なぜ地面にしみ込まずにそのまま下流に流れたのか？

導入 2

水の性質と雨水の行方

これまでにわかった水の性質と雨水の流れを整理する。

・高い所から低い所へ流れる。

・低い所に集まる。

↓

雨水は川に流れ込む。

・地面の状態でしみ込み方は変わる。

↓

川底や川原の地面の状態によって流れ方が違う。

災害を出さないための工夫は？

展開 2

予想を立てて立証

地面の状況を変えれば水の流れをコントロールできるのでは？

実験

◉植木鉢にいろいろな種類の土や形状の違う土を用意する。
◉それぞれに水をしみ込ませ、しみ込み方の違いを比べる。

↓

土の粒が大きいほど水が早くしみ込む。

まとめ

雨水の行方と地面の高さや土の種類との関係について、得られた科学的根拠を基に、川の増水を防ぐ方法を考える

地面の高さと水流の関係

・雨水が川に流れ込んだ後、水流の方向やスピードをコントロールするには？

↓

水流を緩やかにするには、階段状にするなど川の中の高さを工夫する。

地面の種類と水流の関係

・水が地面にしみ込み緩やかに集まるように、地面や川底をコンクリートばかりにしない。

©一般社団法人社会応援ネットワーク
※「防災教育実践交流会」は、競輪の補助を受け運営しています。

授業プラン

川とともに生きる街づくりをしよう
（5年生理科）

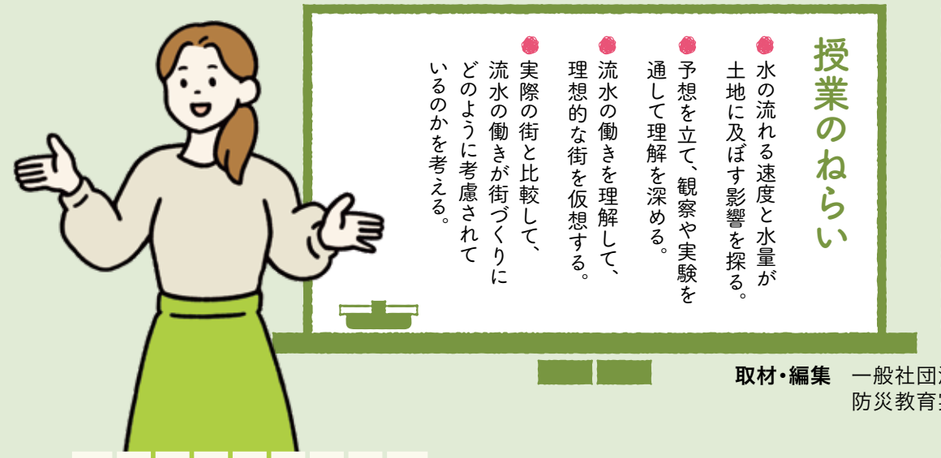
テーマ 水の特性とそのはたらきが土地に及ぼす影響から、安心安全な街づくりを考える。

対　象 小学5年生

教　材 さまざまな川の映像や画像
実際に起こった水害時の映像や画像
土や小石、砂など（水を流すサンプル土壌を作る）
石膏の欠片とペットボトル（水によって削られる実験に使用）
神戸市街地図（生田川付け替え以前の地図）

神戸常盤大学
教育学部
こども教育学科

講師
田中 達也



監修
諏訪清二
（すわ・せいじ）
防災教育実践交流会座長
防災教育学会会長

防災学習アドバイザー・コラボレーター。国内外で防災教育のプロジェクトに関わるほか、学校での防災学習の支援活動を中心に、災害、ボランティア、語り継ぎなどのテーマで講演も行う。

取材・編集　一般社団法人社会応援ネットワーク
防災教育実践交流会

学習の流れ…→

導入1

実際の水害写真から水のはたらき（影響）を考える

水流が土地にどのような影響を与えたか？

・川の水があふれて地面を削る。

・大きな木や家も流される。

・水が引いた後には木や泥が溜まる。

・水量は急激に増えたと考えられる。

展開1

実際に水を流して実験する

急な場所と緩やかな場所では、水の動きとはたらきはどう変化するか？

・角度が急な場所は流れが速い。

・流れが速いと「浸食」「運搬」のはたらきが大きい。

・緩やかな場所では流れが遅く、「堆積」のはたらきが大きい。

水量によって、水の動きとはたらきはどう変化するか？

・水量が多いと流れる速度が速く、「浸食」「運搬」のはたらきが大きくなる。

・水量が少ないと流れる速度が遅く、「堆積」のはたらきが大きくなる。

カーブでは、水の動きとはたらきはどう変化するか？

・水流は外側に向かうので、外側の水量が多く流れも速くなる。

・水流は外側に大きく振られるので、内側より外側の地面の方が大きく削られる。

導入2

上流・中流・下流で川の様子はどのように違っているか？

川幅や流れる速度、石の形や大きさなど、川の様子は大きく違う。

・上流…川幅が細く水の流れは速い。大きな岩が多い。

・中流…川幅が広がり流れも緩く、大きな岩より丸い石が多い。

・下流…川幅が広く水の流れも緩やかで、川底や川原には小石や砂が多い。

展開2

岩や石、砂はどのようにして形成されたか考える

・上流…急峻で石が転がり削られながら運ばれる（「浸食」「運搬」）。

・中流…長い年月でゆっくりと石が削られ小さく丸くなる（「浸食」「運搬」）。

・下流…小石や砂が運ばれずに溜まる（「堆積」）。

まとめ

川の特性を生かした街づくり

❶氾濫の可能性のある場所と安全な場所を市街地図に色分けする。

❷氾濫を防ぐには、堤防や階段状の堰をどこに造ると効果的か？

❸学校や老人施設はどんな場所にあるといいか？（安全性と避難時の利便性）

水害が発生する場所を予想しながら理想的な街づくりを考え、過去に生田川の付け替えで水害を防いだ事実につなげる。

⬇

今回学習したことが実際の街づくりに活かされていることを理解する。

©一般社団法人社会応援ネットワーク
※「防災教育実践交流会」は、競輪の補助を受け運営しています。

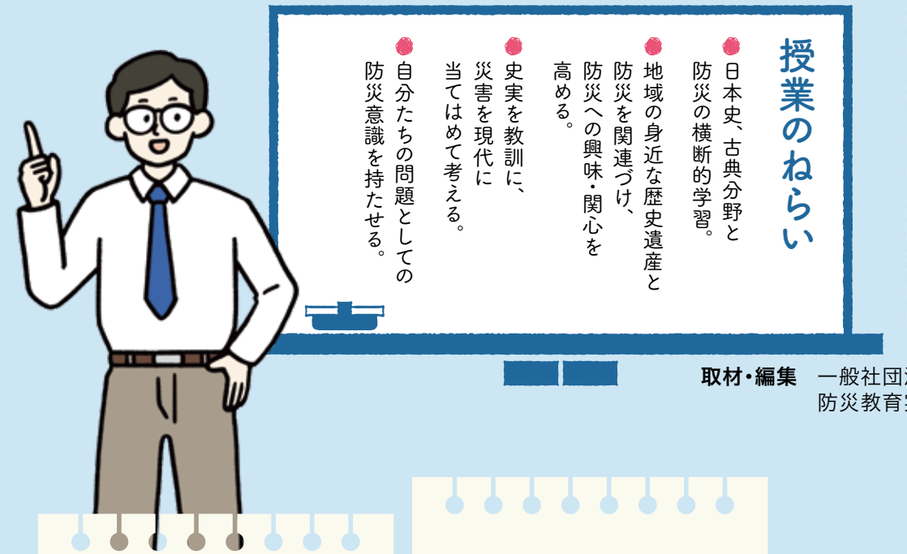
授業プラン

「安元の大火」から京都の火災について学ぶ

（2021年度防災教育チャレンジプラン防災教育大賞受賞）

テーマ 歴史を教訓に防災を学ぶ
対　象 高校3年生
教　材 平安時代の古地図コピー、現在の京都市内地図
古典教科書・単語帳、筆記用具

京都府立
東稜高等学校
総務部総務課長
教諭　糟野 譲司



監修
諏訪清二
（すわ・せいじ）
防災教育実践交流会座長
防災教育学会会長
防災学習アドバイザー・コラボラレーター。国内外で防災教育のプロジェクトに関わるほか、学校での防災学習の支援活動を中心に、災害、ボランティア、語り継ぎなどのテーマで講演も行う。

取材・編集　一般社団法人社会応援ネットワーク
防災教育実践交流会

学習の流れ…→

導入 1

古典学習として鴨長明と「方丈記」についての知識を深める

・鴨長明
平安時代末期～鎌倉時代前期にかけての歌人・随筆家。
1212 年、現在の京都市伏見区日野山の方丈庵で「方丈記」を執筆。「徒然草」、「枕草子」と並ぶ古典日本三大随筆。

展開 1

「方丈記」に記された安元の大火とは？ その被害は？

・「安元の大火」とは？
安元 3 年（1177）京の都の東南部で発生した火災。
舞人（まいびと）を宿泊させていた仮小屋の出火が原因で、朱雀門・大極殿をはじめ、都の 1/3 の家屋が焼失。

・グループに分かれ、「方丈記」に記された「安元の大火」を現代語に訳し、焼失範囲を古地図に表わす。

・各グループの考える焼失範囲と実際の焼失範囲を比較する。

導入 2

現在の京都市内との比較

・当時の焼失範囲を現在の京都市内地図に当てはめてみる。

・当時の被害を現代に置き換え、どの程度の被害に及ぶか考察する。

展開 2

大きな被害になった原因を考察

・当時の人々の暮らし（貴族と農民の比較）

・火災時の人々の動き

・京都に寝殿造の遺構が残っていない理由なども交えて考察する。

まとめ

歴史を学び、史実を今日の教訓にして、現在の防災教育について考える

・日本史や古典を切り口にした防災教育。

・過去の災害を教訓に、町屋や路地裏など京都特有の構造と被害の関係性から、現在の京都の防災を考える。

⬇

自分たちの住む京都をどう守るか。

自然災害伝承碑

どこにあるか、国土地理院の地図記号で探し、その目的を考えてみよう。

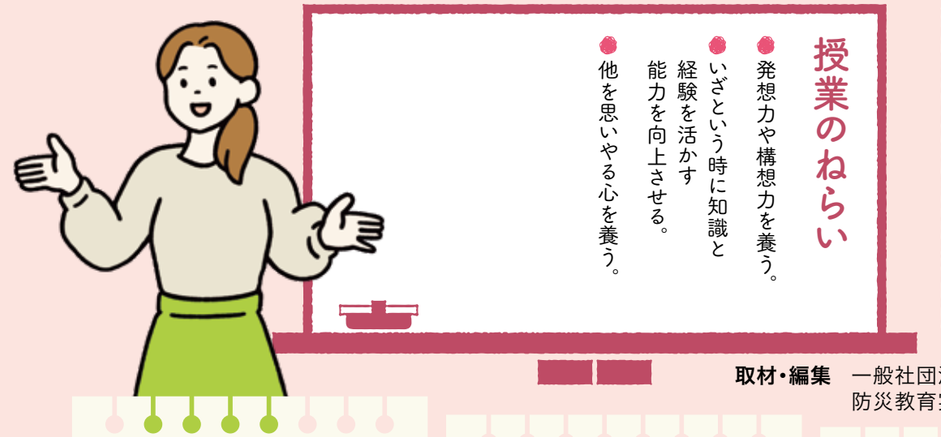
©一般社団法人社会応援ネットワーク
※「防災教育実践交流会」は、競輪の補助を受け運営しています。

授業プラン

図工の時間に学ぶ防災

テーマ　発想力は生きる力
対　象　小学校３年～６年　ワークショップ（親子、大人向け）
教　材　45ℓまたは90ℓのビニール袋、ハサミ
古Tシャツ、紙、接着剤
神戸市防災副読本「しあわせはこぼう」

神戸市立中央小学校
主幹・図工専科
前 有香



監修
諏訪清二
（すわ・せいじ）
防災教育実践交流会座長
防災教育学会会長
防災学習アドバイザー・コラボラレーター。国内外で防災教育のプロジェクトに関わるほか、学校での防災学習の支援活動を中心に、災害、ボランティア、語り継ぎなどのテーマで講演も行う。

取材・編集　一般社団法人社会応援ネットワーク
防災教育実践交流会

学習の流れ…→

導入1

小学校３年～６年生対象

造形遊び
「袋の変身」「地震に強い家」

神戸市防災副読本「しあわせはこぼう」（神戸市教育委員会）を活用。

掲載写真を取り上げ、災害時に必要なもの、地震に強い家（建物）についてグループに分かれて考える。

展開1

「しあわせはこぼう」を教材にグループに分かれて授業を実施

周りにある身近なものを使い避難所で役立つものを作ろう。

（例題１）
45ℓまたは 90ℓのビニール袋とハサミを使って何か作ってみよう。

避難所では何が必要か？
何があったらいいか？

・身に付けるウェア
・トイレの間仕切り
・遊び道具など

※季節や時期によって作るものを変える。

（例題２）
紙を使って倒れない建物を造ろう。

倒壊した建物の写真を見て、地震に強い建物の構造を考える。

・倒れやすいのはどんな建物？
・倒れにくいのはどんな建物？

紙でいろいろな建物をつくり、地面に見立てた紙を動かして建物の揺れ方を比較する。

導入2

ワークショップ（親子、大人対象）

造形遊び
「袋の変身」「Tシャツの変身」

神戸市防災副読本「幸せ運ぼう」（神戸市教育委員会）を活用。

災害時に必要なものを考え、親子で楽しみながらいろいろ作ってみよう。

展開2

親子で身の回りのものを使って楽しみながらいろいろ作ってみる

（例題１）
45ℓまたは 90ℓのビニール袋とハサミを使って何か作ってみよう。

避難所では何が必要か？
何があったらいいか？

・身に付けるウェア
・トイレの間仕切り
・遊び道具など

※季節や時期によって作るものを変える。

（例題２）

古いＴシャツなど衣類から何が作れるか？

・マスク
・三角巾
・子ども抱っこリュックなど

※季節や時期、災害の種類や状況に応じて作るものを変える。

まとめ

身近なものが災害時に役立つものに変身

→新鮮な驚きと共感から柔軟な発想力を養う。

→いざという時に役立てられるように体得する。

→自分のためでもあり他の人のためにもなる。

倒壊しにくい建物の構造を知る

→自分の身を守ることにもつながる。

©一般社団法人社会応援ネットワーク
※「防災教育実践交流会」は、競輪の補助を受け運営しています。